

お笑い道場

～古典落語を学び、ユーモアセンス・表現力を育てる～

講師 安野家 仁楽齋氏(社会人落語家・フリーアナウンサー)

本物の落語を味わい、扇子の使い方や落語を話すときの視線の配り方、しぐさ等を学びました。お笑い大会では会場にいらっしゃった家族の皆さんに、「小噺」・「なぞかけ」や「折句」などを披露しました。

【1回目】 8/4(土) 落語を勉強しよう

先生がまず自己紹介。そしてこの道場でならうことは1小噺、2なぞかけ、3折句、あいうえお作文。みんなに落語の小道具の「扇子」と「手ぬぐい」を配る。落語についての説明。まず、お手本として先生が短いお話を一席。お辞儀をすることと終わったら座布団をひっくり返すことを教えられる。先生が高座名を考えるヒントとして、みんなが高座に上がり自己紹介。来週の宿題として小噺を覚えてくることに。



↑初めて高座に上がって

【2回目】 8/11(水) 自分を表現しよう

前回のヒントから先生がみんなの「高座名」を発表。高座名を発表するごとに、「えーっ!」「ワアー」などという声。次に宿題だった小噺の発表に。高座に上がり発表するのだが、今年の参加者は全員が何らかの話覚えてきている。中には本格的もあり。それを聞きながら先生は各人に話し方やしぐさの指導をされる。大喜利で発表する「なぞかけ・折句・あいうえお作文」について説明される。来週にむけて「なぞかけ」のお題は「オリンピック・天気」、「折句」のお題は「かつお・あひす」として考えるよう宿題が出された。



↑先生の所作指導

【3回目】 8/18(水) 大きな声で会話しよう

先週お稽古した小噺の仕上がりをおさらい。改めて先生からアドバイスを受ける。次に宿題が出されていた「なぞかけ」「折句」について発表する。「なぞかけ」のお題は「オリンピック・天気」、「折句」のお題は「かつお・あひす」。家で考えてきた答えを次々と発表。その場で考えて発表する子も。豊かな発想力だ。この辺りは例年一層にぎやかになる場面だ。来週は「お笑い大会」の発表会だ。「なぞかけ」のお題は「文房具」、「折句」のお題は「きのこ・ひなた」。どんな回答が飛び出すのかとても楽しみだ。



↑大会に向けて仕上がりは上々

【発表会】 8/22(日) 「お笑い大会」

コロナウイルスの関係で、今年も来場者の席の間隔を空け、保護者の数も人数制限して参加してもらった。子どもたちには表情が分かるように、小噺の時はフェースシールドを付けて発表してもらった。まず、「小噺」から発表。一人ずつ高座に上がり、お辞儀をして高座名を名乗ってから話し始めた。前回までお稽古を見ていたが、思っていた以上によく覚えていて、小噺の域を超え落語になっている子もいた。それぞれ指導してもらった



↑小噺披露



↑大喜利コーナー

通り表情や話し方に気を付けながら発表していた。みんなあまりにも上手なので審査員も審査に困るのでは。結果は紅組の勝ち。次に大喜利に入る。全員舞台上がり紅白に分かれる。最初は「なぞかけ」、お題は「文房具」。すぐにあちこちから手が上がる。今年も感染対策として、先生が子どもの答えを復唱する。発表のたびに会場からは「ほーっ!」「ウフフフフ・?」などと声が聞かれ、拍手が鳴り響く。なぞかけは白組の勝ち。お題は「きのこ・ひなた」。すぐに次々と手が上がる。みんなたくさん回答を考えてきていて、発表したくてたまらない様子。折句はまた白組の勝ち。最後は「あいうえお作文」、みんなが一番盛り上がる戦いだ。まとまった文章になるか、まったく意表を突いた文章になるかは5人が終わるまで分からない。会場全体が大笑いしたり、首を傾げたり、拍手の嵐が来たり。あいうえお作文は白組の勝ち。採点の結果は紅組5点、白組7点で白の逆転勝ち。先生が「修了笑書」をみんなに手渡して今年度の「お笑い大会」は無事終了した。最後に全員で記念撮影。みなさんおつかれさま。



↑記念撮影